



特集

祝結(つなぐ)

～いまここから～



CONTENTS

理事長ご挨拶	P2
特集「祝結(つなぐ)～いまここから～」	P3～4
光道園の応援団～業者の人/親子“三代”にわたって～	P5
光道園トピックス	P6
ポッチャが光道園にやってきた!/フ・クレール 北陸新幹線開通「道の駅商品展」...	P7
ちょこリクナビ/編集後記	P8



Facebook



ホームページ



Instagram



社会福祉法人光道園 理事長
荒木 博文



令和五年、卯年を迎えました。今年も新型コロナウイルス感染症 第八波の流行、さらに物価高騰と波乱含みのスタートとなりました。新型コロナウイルス感染症が流行し始めてから四年目となり、「コロナと共に生きる」という日常へとシフトしてきました。「コロナだから」という理由で様々なことを制限されてきましたが、光道園としても、感染予防に留意しつつも利用者の方々の生活を新型コロナウイルス感染症流行以前の日常へと取り戻したいと思っております。

また、物価高騰も法人経営を直撃し、大幅な補正予算を組まざるを得なくなりました。この窮状を脱すべく加盟団体等を通じて国や県、市町に訴えています。

今現在、そして将来も大きく影響するのが少子化問題です。人口、特に就労人口の減少は我が国における最大の危機です。国は少子化対策に本腰を入れ始めました。効果を大いに期待したいものですが、光道園にとっても最も重要な課題です。利用者の方がいるにもかかわらず、職員が足りず規模縮小・廃業という施設や事業所も全国的に出てきています。また一方で、利用者の方やそのご家族は、

専門性が高く、成果をあげている施設・事業所を選ばれる傾向も見えてきました。利用者の方々にご満足いただけるような質の高い支援の提供と、その成果を実感できるよう実践するとともに、職員には働きやすい環境と、自ら専門職として成長できうるシステムを構築したいと思います。そして、少子化対策として『子育て』と『働く』の両立が可能な職場、根拠に基づいた専門性の高い支援の実践など、光道園が進めてきた取り組みを広くアピールするとともに人材確保へも力点を置きます。利用者満足、職員満足を目指し、実行して参ります。

最後に、念願でありました光が丘ワークセンターの新築移転先が、地権者の方々と朝日区のご理解をいただき「越前町朝日三丁目字上ガ流」に決定いたしました。敷地は、約一万二千㎡あり、光道園の将来を見据え、法人全体を賄う給食センター、遠隔地や外国人雇用のための職員寮を併設予定です。これには、多額の資金が必要となりますが、何としても成し遂げなければならない事業であります。今後とも皆様のさらなるご支援をお願い申し上げます。



— 新成人おめでとう —

成人式

“たねのいえーい” で笑顔咲く



～笑いあり涙ありの成人式～



令和五年一月十九日、ライフトレーニングセンターたねのいえで成人式が開催されました。今年は、大橋雄希さんが成人を迎えられ、参列した利用者の方、職員等で盛大に成人をお祝いしました。

時はさかのぼり十一月、ご家族の方に参加の有無を伺いました。後日、幼少期から今日に至るまで、ご家族の方と様々な所へ訪れ一緒に過ごした愛情あふれる写真の準備と、アンケート用紙に出生時のエピソードやご家族の方の想いを記入していただきました。

十二月後半、成人式に向けてたねのいえの利用者の方が輪っかアーチと、紙吹雪を作り、職員はウェルカムボードや手作りのコサージュ、スライドショーの作成など、様々な準備を進めながら成人式を待ち望みました。

当日、午後からの開式に向け、ご本人はスーツを身に纏い、他の利用者の方も清楚な服装で式に参加しました。ご本人と母の胸元に手作りのコサージュを付け、「新成人、入場」のアナウンスの後に入場され、拍手喝采の中、堂々とした足取りで歩かれていました。その後、常務理事と参加されている方々から祝辞をいただきました。

和やかな雰囲気の中、成人の儀式として「ケーキ入り」をしていただき、本物のお酒で「御神酒の儀」、他の利用者の方が作ってくれた紙吹雪を入れた「くす玉割り」、新成人の抱負を認めた「書初め」を、ご本人とご家族の方で行なってもらいました。それぞれの儀式で、ご本人の周りの人を笑顔にする力も相まって盛り上がりを見せ、ご家族の方も一緒に楽しんでいただけている様子でした。

儀式の後には、ご家族の方から預かった写真やメッセージ、たねのいえを利用してからの写真をまとめて作成した動画を上映しました。気持ちを込めて作成した動画に、ご家族の方が感動されており、作成者としても嬉しい思いでいっぱいになりました。ご家族の方から手紙を読んでいたいただいた時には、ご家族の方のみならず、会場全体が感動し、涙する方もいました。新成人の祝いに、記念品と花束を利用者の方が代表して贈呈していただき閉式しました。

職員、他の利用者の方、皆で作った成人式の雰囲気にご家族の方からも、「こんなに盛大に祝ってもらって嬉しいです」とのお言葉をいただき、開催して本当に良かったと心から思いました。



文責・写真：ライフトレーニングセンターたねのいえ
内倉 優大



祝二十歳 大人への仲間入り



文責・写真：ライフトレーニングセンターさくら館
福田 桃子

～人生の節目を素敵な仲間と一緒に～

ライフトレーニングセンターさくら館で成人式が行なわれ、中島南海さんが成人を迎えられました。初めての晴れ着に袖を通し、普段と違う洋服に少し戸惑う様子も見られましたが、しっかりと式に参加されました。晴れ着姿の中島さんは、可愛らしく、とても似合っていました。職員からも「可愛いね」「素敵だね」と好評で、成人式にて晴れ着を着ることができて、とても良かったと感じました。

さくら館の自治会長からプレゼントをもらった際には、プレゼントを一生懸命開けようとされており、楽しみにしている様子が伺えました。中身が洋服だと分かったと、私に「着せて」と手渡してきました。その姿が可愛らしく感じたと同時に、喜んでいただけて、とても嬉しかったです。

私が、中島さんの担当をさせていただいてから約二年が経ちました。成人式という人生の大切な節目の時に、担当としてかわらせていただけた事に、とても嬉しく感じます。

笑顔が素敵な中島さん、これからもその笑顔でいろいろな事に挑戦し、一緒に成長していきましょう。二十歳おめでとうございます。



笑顔に包まれながらの 長寿祝賀会



皆様は、重陽の節句(ちようようのせつく)というものをご存知でしょうか。端午の節句や桃の節句という言葉は聞き覚えがあるかもしれませんが、重陽の節句は、別名、菊の節句とも言われ、九月九日は、奇数の最大数である九が重なる事が大変めでたいということで、その昔は長寿を祝う日でもあったそうです。

第三光が丘ハウスでも去る九月十五日に長寿の利用者の方のお祝い会である長寿祝賀会を開催しました。長寿のお祝いというと、八十八歳の米寿が印象的ですが、米寿の方に限らず、節目の歳を迎えられた利用者の方々、全員のお祝いをさせていただくのが毎年恒例の第三光が丘ハウスの長寿祝賀会です。

最高齢の方、百歳を迎えられる方(紀寿)、九十九歳を迎えられる方(白寿)、九十歳を迎えられる方(卒寿)、八十八歳を迎えられる方(米寿)、計十四名の方を対象として施設をあげてお祝いをさせていただきました。

これまで行なっていた第三光が丘ハウスの長寿祝賀会は、施設においてご家族と共に節目の歳を祝う行事でしたが、コロナ禍を考慮し、利用者の方と職員のみでお祝いをさせていただきました。お祝い会場には、紅白幕を掲げ、対象となられる方のお名前を掲示しました。その会場にて、利用者の方が希望された品物の贈呈や馴染みのある職員からの手作りメッセージカードをプレゼントさせていただきました。利用者の方、職員の笑顔に包まれながら長寿祝賀会は今年も盛大に盛り上がり、大成功をおさめることができました。利用者の方の「ありがとう」の言葉が何よりの職員の励みになったと振り返ります。

また、この日の昼食にはお祝い膳をご用意し、皆さんが舌鼓を打たれました。

第三光が丘ハウスの長寿祝賀会は、心も身体も笑顔に包まれる温かい行事であり、来年こそは、ご家族と共に祝いできることを願います。



文責・写真：第三光が丘ハウス
宮下 正也





取材を進める中で、前一人は先代である正春さん・初枝さんご夫妻の「職人」としての熱い思い、光道園に対する温かい思いを語ってくれた。

鯖江市石田下町の住宅街にある老舗の理容店が「パーバースタylist」さん。そのマスターで、長年利用者の方の散髪にご協力をいただいているのが、二代目、高島前一人さんである。実は前一人さん、高校を卒業後、光道園に就職。支援員として三年間勤務された後、「家（店）」を継ぐよりも、光道園の散髪を継いでほしい」という先代の思いを引き継ぎ、以後四十年以上、理容店の経営と共に、利用者の方の散髪を担っている。

●光道園の「職員」から「職人」へ

光道園の応援団

業者の Trader



光道園は創設以来、利用者の方はもちろん、そのご家族、そして、地域の沢山の方々に支えられて今があります。今回は、長年にわたって光道園を支えて下さっている地域の業者様にスポットを当て、エピソードなどを交えながらご紹介させていただきます。

「親子“三代”にわたって」

パーバースタylist

(鯖江市 石田下町)

高島 前一人さん (理容師)
たかし まさかず

高島 彰人さん (理容師)
たかし まさかず

藤北 陽子さん (理容師)
ふじきた ようこ



「お客さん（利用者の方）と一緒にこの時間を楽しんでるんだよ」

「職員よりも利用者さんの名前を知ってるで（笑）」

光道園は障がい・高齢合わせて六つの入所施設がある。それぞれ施設の中に「理容室」を設置し、散髪日に合わせて高島さんに来園いただいている。ほとんどの利用者の方が高島さんにカットをお願いしている常連さんで、コロナ禍以前は直接お店へ出向く方もいるほど、リピーターが多い。軽快なハサミの音と共に、途切れることのない職人とお客さん（利用者の方）との会話。現職員として恥ずかしいことだが、部署の違う私は、どの施設のどなたをカットされているのかが分からない（汗）。そんな私の様子から、「職員よりも利用者さんの名前を知ってるで」と笑いながらハサミを動かす前一人さん。職人というだけでなく、大先輩（OB）という一面が垣間見れた。

●初代中道園長とのエピソード

前一人さんからは、理容店の歴史の他、初代中道園長とのエピソードも聞くことができた。前一人さんが物心つくかつかない頃であったが、中道園長の膝に乗せてもらい、飴玉をもらったことを覚えておられた。その際、中道園長は「おい坊主、お前も（利用者の方の）散髪してやってくれな」と言われ、頭を撫でられたそう。中道園長を知っている職員、関係者が少なくなる中、前一人さんは中道園長の人柄や物語を伝えてくれる貴重な人物である。

●先代の思いは、また次の世代へと

前一人さんと並んで鮮やかにハサミを振る若いイケメン理容師が、前一人さんの御子息、彰人さんだ。「小さいころから家（店）に利用者さんが来ていたからね」と、幼い頃から利用者の方と触れ合ってきた経緯から、先代、そして前一人さんの思いを受け継いだのは自然なことだったのかも知れない。かつてフリーガーを目指したわんぱく少年も、今や立派な三代目として「パーバースタylist」の看板と先代の思いを引き継いでいる。

彰人さんに密かに思いを寄せる女性職員もいると聞かないとか？



「利用者さんの散髪はオレが一番上手い!!」

「光道園が修業の場だった」

そう語るのが藤北陽子さんだ。女性だからこそその細やかな気遣いやサービスで、利用者の方の笑顔を引き出し、私にシャッターチャンスを与えてくれた。「コミュニケーションが苦手な方ほど、どうしても笑顔にさせることができるかを教えてくれたね。それが今の仕事に活かされている。職人になるため『本当の修業』ができたのが光道園だった」と陽子さんは笑う。



「利用者さんからは、色々なことを教えてもらい、育ててもらったね」

たくさんの方の業者の方に支えられている光道園。その方お一人おひとりに、光道園に対する温かい思いや利用者の方との「ドラマ」があることを知った。また職種は違えど、「職人（理容師）」であることの高いプロ意識、利用者の方への接し方やかわり方など、「福祉のプロ」として高島さん達から学ぶことも大切だと感じた。光道園の理容室からは、今日も職人さんと利用者の方の賑やかな笑い声が聞こえる。



ライフトレーニングセンター きらら館

コロナ禍でも楽しい初詣

ライフ一階では、元旦からコロナ陽性者が確認され、居室対応のお正月となりました。一月五日に予定されていた、剣神社への初詣は中止になりました。そこで、新年会に何か楽しい事ができないかと考えました。神社の絵や干支にちなんだ狛犬ならぬ狛うさぎや神社・鈴・おみくじ・賽銭箱を職員手作りで廊下に飾りました。

一月十九日、新年会当日、利用者の方は今年の抱負を紙で作った絵馬に書き、新年会のご馳走を頂いた後は、『きらら神社』にお詣りし、各自がおみくじを引きました。お詣りして鈴を鳴らすと鈴が飛んでしまったり、紙が破れてしまう事もありましたが、それも手作りならではの醍醐味です。大吉をひいて大喜びされたり、絵馬に『今年は温泉に行きたい』と願い事を書き、楽しいひと時を過ごされました。楽しい一年の始まりとなるように、職員皆の思いがこもった新年会でした。



文責・写真：ライフトレーニングセンターきらら館一同

光が丘ワークセンター

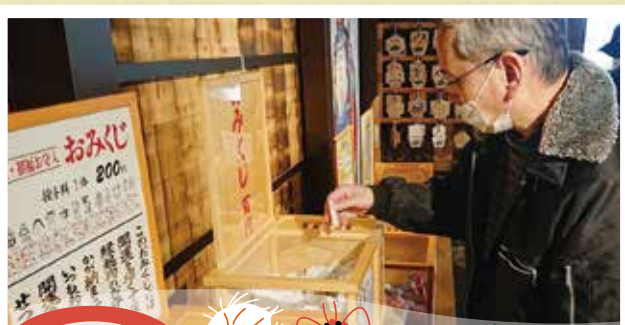
剣神社へ初詣〜今年の願い事〜

一月十一日、光が丘ワークセンターで、越前町にある剣神社へ初詣に行きました。天候にも恵まれ、久しぶりの外出に利用者の方は、向かうバスの中から話し声が絶えませんでした。

到着し、皆で参拝をしました。コロナ禍前の『今年も健康に過ごせますように』というお願い事は、『つつじマラソンに出れますように』などのお願い事に変わっていました。

その後おみくじを引き、大吉が出た利用者の方は『やったー！』と大喜びしていました。

今回はコロナ禍だからその、いつもとはどこか違った初詣になったと感じました。



文責・写真：事務局／企画G 吉田 美里

ボッチャが光道園にやってきました！

昨年末、十一月二十九日に福井銀行教育福祉財団様より、ボッチャ一式を助成していただきました。心よりお礼申し上げます。

さて、みなさんはボッチャという競技を知っていますか？ボッチャはヨーロッパ生まれで、重度脳性麻痺のある方もしくは同程度の四肢重度機能障がいのある方のために考案されたスポーツです。一九八八年のソウルパラリンピック大会から正式種目として採用されています。二〇二一年の東京パラリンピック大会では杉村選手が個人のクラスで金メダルを獲得したことはみなさんの記憶にも新しいと思います。



ボッチャという競技は縦十二・五m、横六mのコート上で、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ六球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う競技です。冬季オリンピックの競技のカリニングに似ていることから「地上のカリニング」と呼ばれることもありますが、今回「ボッチャが光道園にやってきました！」ということで、まずは職員でやってみよう！と実際に、事務



局職員でボッチャを体験してみました。職員のみならずボッチャに触ってもらいましたが、みなさんからは「意外とずっしりと重い」という声が上がりました。ボールは皮製ボールで大きさは手のひらにちょうどすっぽりと収まるぐらいのサイズでお手玉より少し大きいサイズです。競技用のシートについては横四m、縦三mと実際の競技より小さいサイズを購入しています。誰でも気軽に参加してもらえるサイズだと思っています。

実際にチームに分かれて三対三のチーム戦を行いました。みなさん、なかなか白い的球に手持ちの赤や青のボールを近づけることに苦戦をしていました。でも、職員もボッチャという競技をやっていく中で、自然と笑顔があふれてきました。ボッチャはみんなが笑顔になれる競技だと思いました。

今後、今回のように職員のレクリエーションや利用者の方の行事等、また地域の小学校での福祉体験等大切に使用していきたいと思っております。ありがとうございました。

文責・写真・事務局/総務G 吉田 茂

道の駅「越前たけふ」にフ・クレールがOPENします!!

3月土
18日

開業間近!!
整備中



越前市の北陸新幹線越前たけふ駅西口で整備している道の駅「越前たけふ」が2023年3月18日に開業。その中に、フ・クレールも商品販売ブースを展開します。お近くへお越しの際は、是非お立ち寄り下さい!!



Snow Boll

- 白
- いちご
- チョコ
- 抹茶...etc
- ※各種 8 個入り

しっとり生地で
優しい甘さ

ふんわり柔らかく口どけの良い食感
アイスティーやアイスコーヒーとの
相性抜群!

Cookie

- プレーン (ハート)
- チョコアーモンド
- 紅茶
- パニラ...etc ※各種 8 枚入り
- サブレ (4 枚入り)

甘さ控えめで
オトナ向けのテイスト

サクッととした軽〜い食感と香ばしい風味
紅茶やホットコーヒーなどと一緒に!



Other

- ボール (かぼちゃ)
- ボール (ピーズ) ※各種 8 個入り
- にじいろクッキー (12 枚入り)

お子様も安心の
ヘルシーおやつ

植物性食素材を使った焼き菓子
福井県産材料ともコラボした商品!



大切な方への
贈りものにも

— こだわり —

本店では贈答用に詰め合わせも販売しております。お求めの際は、お気軽にお問合せ下さい!!

Clair (クレール) とは、フランス語で『光』を意味します。
希望の光、明日を明るく照らす光。
思わず“ふっ”と顔をほころばせてしまう。
おいしいものからはじまる小さな幸せ。
フ・クレールは明るい幸せをつくるお店です。



当店の商品は一つひとつが手作り。
添加物・保存料・着色料は使用しておりません。
安心してお召し上がりください。

【お問い合わせ】

〒916-0146 福井県丹生郡越前町朝日1丁目504番地
TEL.0778-34-8801 FAX.0778-34-8831

光道園は毎年、色々なイベントに参加しています。今回は24年度卒業の学生の方向けに開催される、光道園が参加するイベントをお伝えします。

イベントでは法人の説明に加え、働きがいや先輩スタッフの声など、学生の皆さんが知りたい情報をお話しさせていただきます♪



2月～3月に参加予定のイベントについては

コチラ

●合同セミナー Stepping2024

2023年2月22日(水) 13:00～17:00

場所 福井県産業会館 1号館・2号館



●ふくい福祉就職フェア

2023年3月4日(土)

第1部 10:30～12:00 保育・児童・障がい者分野

第2部 13:45～15:15 高齢者分野

場所 福井県社会福祉センター 2階 体育館

※1部、2部の両方に参加させていただきます！



24 卒向け

光道園参加イベント情報

Welcome!



今号も、絆の杜をお読みいただき、ありがとうございます！
今回は、「祝結(つなぐ)」というところから「祝結(つなぐ)」というキャッチコピーにもある通り、「祝い」をテーマにした特集となっています。
成人式は一生に一度の晴れの日、人生で重要な節目です。冠婚葬祭の「冠」は成人式を表わしていますが、「成人になる」ということが、古くからどれだけ重要視されていたかがわかります。二十歳を迎える年を祝う成人式は、終戦の翌年、明日への新たな希望が見出せるよう若者を勇気づけようと「青年祭」を開催したことが起源とされています。当時から、現在の成人式のように、町長や来賓者から激励を受け、式典後には芸能大会や物々交換などの催し物が行なわれたり、当時の若者に人気があったおしるこがふるまわれたりと、おおいに盛り上がったそうですよ。
光道園でも、二十歳の節目や、還暦、米寿といった人生の節目を大切にお祝いしています。「おめでとー」「ありがとう」という魔法の言葉を通して、みんなが幸せな気持ちを共有できるのは、フクシの仕事だからこそ経験できる最高の瞬間の一つだと思います。
今回の絆の杜を読んでいただき、皆様とも幸せな気持ちで繋がれると嬉しいです。ぜひ、ご覧ください。

編集後記



社会福祉法人 光道園

<https://www.kodoen.or.jp/>

社会福祉法人 光道園 法人本部

鯖江市和田町9-1-1

障害者支援施設 ライトワークセンター

鯖江市和田町9-1-1

障害者支援施設 ライトトレーニングセンター

鯖江市和田町9-1-1

日中生活介護事業 たねのいえ

鯖江市和田町9-1-1

相談支援センター こうどうえん

鯖江市和田町9-1-1

社会福祉法人 光道園 朝日事業所

丹生郡越前町朝日22-7-1

養護老人ホーム 第一光が丘ハウス

丹生郡越前町朝日22-7-1

養護(盲)老人ホーム 第二光が丘ハウス

丹生郡越前町朝日22-7-1

特別養護老人ホーム 第三光が丘ハウス

丹生郡越前町朝日22-7-1

通所介護事業所 デイサービスセンターさざんかホール

丹生郡越前町朝日22-7-1

訪問介護事業所 ヘルパーステーションさざんか

丹生郡越前町朝日22-7-1

在宅介護支援センター さざんかホール

丹生郡越前町朝日22-7-1

居宅介護支援事業所 さざんかホール

丹生郡越前町朝日22-7-1

地域包括支援センター 丹生

丹生郡越前町朝日22-7-1

障害者支援施設 光が丘ワークセンター

丹生郡越前町朝日22-2-2

障害者支援施設 ライトホープセンター

丹生郡越前町朝日22-3-1

日中生活介護事業 わかば館

丹生郡越前町朝日22-3-1

こども支援センター えがお

丹生郡越前町朝日1-201

越前町相談支援センター さざんか

丹生郡越前町朝日1-201

就労支援事業所 フ・クレール

丹生郡越前町朝日1-504

共同生活援助事業所 とらいと

丹生郡越前町朝日1-505

共同生活援助事業所 みらいと

丹生郡越前町朝日1-218

光道園

検索

絆の杜に関するアンケートにご協力をお願いします。

